

令和2年度 鳥取沿岸土砂管理連絡調整会議（西部地区） 次第

日 時 令和3年2月22日（月） 午後14時30分～16時00分

開催方法 オンライン会議

次 第

1 あいさつ

2 議 事

（1） サンドリサイクル事業の効果検証及び課題抽出

（2） 各管理者の土砂管理への取組

- ・ 海岸保全事業の進捗状況について

（日野川河川事務所）

- ・ 土砂管理計画の取り組み状況について

（日野川河川事務所）

- ・ 境港公共マリーナの土砂堆積対策

（境港管理組合）

（3） その他

令和2年度 鳥取県西部沿岸土砂管理連絡調整会議 出席者名簿

R2年度		役 職	氏 名	随 行 者
構 成 員	鳥取大学大学院工学研究科	教 授	黒岩 正光	
	国土交通省日野川河川事務所	調査設計課長	栗原 淳	
		工務課長	眞田 淳二	
	国土交通省境港湾・空港整備事務所	保全課長	松本 次男	
	境海上保安部警備救難課		欠席	
	米子市経済部文化観光局観光課		欠席	
	米子市経済部農林水産振興局水産振興室		欠席	
	米子市都市整備部建設企画課	企画調整室長	折戸 浩二	
	境港市産業部観光振興課		欠席	
	境港市建設部管理課	課 長	渡辺 友則	
	日吉津村建設産業課	課 長	益田 英則	
	境港管理組合	係 長	岡田 順三	土木技師 寺地 献信
	鳥取県農林水産部水産振興局水産課		欠席	
	鳥取県県土整備部空港港湾課	課長補佐	瀬村 正樹	
	鳥取県西部総合事務所地域振興局西部観光商工課	課長補佐	石原 恵一	
	鳥取県西部総合事務所農林局農林業振興課林業振興室		欠席	
鳥取県西部総合事務所米子県土整備局	河川砂防課長	新宮 宏治		
	維持管理課参事	谷野 俊爾		

事務局

鳥取県県土整備部河川課

鳥取沿岸土砂管理連絡調整会議（西部地区） 運営方針

（名称）

本会議は、鳥取沿岸土砂管理連絡調整会議（西部地区）（以下「調整会議」）と称する。

（目的）

調整会議は、淀江漁港から境水道の区間において、土砂の流れの連続性の確保及び回復を目指し、関係機関が連携しながら土砂管理等を促進するため、その方策の検討及び調整を図ることを目的とする。

（調整内容）

調整会議は、上記の目的を達成するため、次に掲げる事項について協議調整を行う。

- （１） 関係機関の連絡調整に関する事項
- （２） 土砂管理の効果検証及び事業調整に関する事項
- （３） その他土砂管理に関して必要な事項

（会議の構成）

調整会議は、別表に掲げる構成員によるものとする。

（会議の招集）

調整会議は、議事内容を整理した上で事務局が招集することとし、年１～２回の開催を行うこととする。

（会議の議事進行）

調整会議の議事進行は、事務局において行い、会議を総括するものとする。

（事務局）

調整会議の事務を処理するため、鳥取県県土整備部河川課に事務局を置く。

構 成 員

鳥取大学大学院工学研究科教授 黒岩 正光
国土交通省日野川河川事務所
国土交通省境港湾・空港整備事務所
境海上保安部警備救難課
米子市経済部観光課
米子市経済部水産振興室
米子市都市整備部建設企画課
境港市産業部観光振興課
境港市建設部管理課
日吉津村建設産業課
境港管理組合
鳥取県農林水産部水産振興局水産課
鳥取県県土整備部空港港湾課
鳥取県西部総合事務所地域振興局西部観光商工課
鳥取県西部総合事務所農林局農林業振興課林業振興室
鳥取県西部総合事務所米子県土整備局

(事務局)

鳥取県県土整備部河川課

令和元年度 鳥取県西部沿岸土砂管理連絡調整会議 議事概要

日 時：令和元年11月26日（火）午後2時30分から4時
場 所：鳥取県立武道館 2階会議室

1 議事

(1) サンドリサイクル事業の効果検証及び課題抽出

サンドリサイクル実施状況、評価分析、今後の方針を海岸毎に説明。

[検討対象海岸：境港工区、富益工区、夜見工区、両三柳工区、皆生工区]

(2) 各管理者の土砂管理への取組

■ 海岸保全事業の進捗状況について（日野川河川事務所）

- ・富益工区 人工リーフ改良（35m/180m）（R1年度）。
- ・富益工区 人工リーフ改良（180m/180m）（R2年度）。
- ・境港マリナーの砂は粒径が小さく流れやすいので、日野川河口等の粒径の大きい砂の養浜を実施した。高波浪時に侵食を受けたが、粒形が大きな砂は遠くへは流されていないと思われるので、今後の土砂の移動についてモニタリングなどで注視する。

<会議での主な意見>

意見) 粒形の大きな砂というのはどのくらいの大きさ。

回答) 1mm～32mmの間。また、砂のほか小石なども混ざっている。

意見) 粒形の大きな砂は継続的に養浜可能か。

回答) 日野川河口より粒形の大きな砂をできるだけ養浜したいと考えている。

■ 土砂管理計画の取り組み状況について（日野川河川事務所）

- ・「日野川流砂系の総合土砂管理計画」を平成26年度に策定。
- ・学術的、技術的内容の検討・検証実施のために学識者を含めた「日野川流砂系総合土砂管理技術検討委員会」を平成30年度に立ち上げ、第1回委員会を平成31年2月に開催。
- ・H30年度に、菅沢ダムの掘削土砂を用いて、日野川右岸2k000付近にV≒1,500m³を実施している。モニタリングを引き続き行うと共に、今後は新たな置土箇所について検討する必要がある。

<会議での主な意見>

意見) 置土の設置方法について、高さを抑えて平たく盛土すれば流出しやすいのでは。

回答) 施工時の現地の制約や漁協との調整もあるが、今後は盛土の形状についても検討したい。

意見) 河口砂州の積極的な活用についてはどのような計画がありますか。

回答) 河口砂州は皆生工区など近い工区にサンドリサイクルとして積極的に活用している。

また、先ほどの大きな粒形の砂を養浜する計画としている富益工区付近へもできるだけ河口の砂を活用していきたい。

■ 境港公共マリナーの土砂堆積対策について（境港管理組合）

- ・レーザー級世界選手権大会が開催されることを踏まえ、必要な範囲の浚渫（ポケット浚渫）を実施。
- ・境港の港湾計画改定もあり、マリナーの位置なども検討中。
- ・汀線・深淺測量を2か月に1回程度行い、必要に応じ維持浚渫を実施する。

意見) 日本海側の海が荒れている時期（冬）に浚渫を行ったようだが何か理由があるのか。

回答) 航路水深が確保できなかったため、緊急的な浚渫を実施した。

意見) レーザー級選手権に関連して境港の評判はいかに。

回答) 利用者からはセーリングを行うにはベターな環境であると評判であった。

意見) ポケット浚渫で効果があるのか。

回答) 正直に言うとあまり効果がない。高波浪などですぐ埋まってしまう。

シミュレーション等により効果的なポケット浚渫と防砂突堤の組み合わせを検討したい。